鳥取大学



<u> 巻頭言</u>「地域の難題、課題に応え、活性化に貢献する産学・地域連携推進機構を目指して」

産学・地域連携推進機構長 松原 雄平

4月1日より鳥取大学産学・地域連携機構長に就任致しました。鳥取大学が有する豊富な教育研究の資源・資産を有効に活用し、もって地域とのインターフェイスとなるべく機構業務に邁進しようと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本学四学部には約800余名の教育研究者が在籍され活発に活動されておりますが、中国地域の国立大学法人で最大規模の広島大学に比べれば約半数に留まります。しかし、県民一人当りで捉えれば、本学の教育研究者数は広島大学の約2.6倍に相当します。すなわち、鳥取大学が国立大学法人として鳥取県に立地する以上、他県の大学の数倍の教育研究成果を還元する責務があると考えます。また、医、農、工および地域の四学部から構成される本学は、比較的、研究者の顔が見えやすい規模でもあることから、このスケールメリットを生かして、学部間、研究者間の連携を進め、産官との恊働を進めていきたいと考えております。

以上のことを踏まえて、今年度は全学的支援体制と男女共同参画の観点から、新たに副機構長 2 名、研究推進部門に5名、地域貢献・生涯学習部門に4名、知的財産管理運用部門に2名ならびに米子地区地域連携部門に2名と総勢16名の専任および兼務教員を布陣させていただきました。このうち新任の兼務教員6名、内2名が女性兼務教員です。また、コーディネータ陣は6名(内1名は公募中)のうち、鳥取、東京ならびに関西オフィスでは新々気鋭の3名の地域コーディネータを配置させていただきました。また、これら総勢21名の陣容を支えていただくのは研究協力課ならびに社会貢献課の事務部局の方々です。以上の教員、コーディネータ、事務組織で、機構業務を推進・加速させていく所存です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

大学本部の西隣に位置します機構は、格子柄を基調としたアーバンデザインの建物で機構イメージを具現化した建物であると思います。学内の先生方や行政関係者、県内外の企業の方々が、気軽にお立ち寄りいただき、技術相談や商品開発等のミーティングをいただけるような雰囲気の機構としたいと考えております。多くの皆様のご来館をお待ちしております。

最後に、私の故郷(熊本県小国町)の大先輩であり偉大なる細菌学者・北里柴三郎先生の言葉、「開拓」と「報恩」で閉じたいと思います。先生は、「開拓」で、事を処してパイオニアたれ、そして「報恩」では、人に交わって恩を思え、と残されています。今後の、機構の活動に活かしていきたいと思います。



研究推進に関する事業報告

1.鳥取大学-米子高専-神戸高専-鳥取県産業技術センター 合同ビジネス交流会

【3月7日(金) 開催:クリエーションコア東大阪】

今回は、関西地区で関心が高い環境分野の研究シーズを4機関より発表する合同ビジネス交流会を開催しました。冒頭に大阪府商工労働部商工振興室ものづくり支援課の植木友紀子主査より「大阪府中小企業向け研究開発助成金制度の紹介」と産学・地域連携推進機構研究推進部門の長島正明副部門長から「A-STEPなど産学連携の研究開発助成金」の紹介と「生命機能研究支援センターの活動」について本庄和志統括マネージャーから説明がありました。

研究シーズの発表では、鳥取大学大学院工学研究科化学・生物応 用工学専攻 大城 隆教授が「酵素を利用した水産廃棄物からのマリ



ンコラーゲンペプチド製造」、国立米子高専建築学科 前原勝樹准教授は「省エネルギー性能実現のための熱源機台数制御方式の改善と調整」、神戸市立高専機械工学科 赤対秀明教授は「マイクロバブルと環境」、鳥取県産業技術センター機械素材研究所無機材料科 玉井博康科長は「表面結晶構造を制御したチタンシート被覆材料の開発と環境・エネルギー関連部材への応用」について発表がありました。個別相談は2社の面談を実施、ビジネス交流会の参加者は50名、シーズ発表会後の情報交換会には約30名の参加があり盛会に終わりました。

2.鳥取大学第 1 回学際研究交流会(愛称:MIRAI サロン)

学際研究交流会(愛称:MIRAI サロン)は、鳥取大学内の研究者が学部や学科の枠を越えて、人材交流を行う場のことで、各研究者および研究チームの熱心なコミュニケーションの場の創成を目指し、異分野の研究者同士の連携により、研究課題の解決や社会的、学問的にインパクトの大きい研究開発が学内で芽生えることを期待しています。第1回 MIRAI サロンは、豐島良太学長の本学の研究開発の発展を期待するとの挨拶の後、話題提供として、農学部共同獣医学科の岡本芳晴教授が、共同研究者の千葉大学医学部の田村裕准教授(本会に参加)と連名で、「インドシアニングリーン修飾

【3月10日(月) 開催:鳥取大学】



リポソームと光を用いたがん治療」、次いで農学部生物資源環境学科の岩崎 崇助教が「細胞膜透過ペプチドポリヒスチジン(H16)」と題して発表しました。その後、約1時間、米子会場、湖山会場(TV 中継)ともに、参加者と講師との間で熱心な質疑応答がなされ、この会から未来のイノベイティブな研究開発が生まれることを予感する内容でした。参加者は、米子会場31名、湖山会場24名と盛会でした。

3.日中大学フェア&フォーラム in China 2014

【3月19日(水)~3月23日(日) 開催:フォーラム・日中交流会(北京)、フェア(上海)】

科学技術振興機構(JST)が主催する標記のイベントに、本機構の田中俊行研究推進部門長が参加し、北京でのフォーラム・日中交流会では、「日中における産学連携の現状と課題」等について情報を収集すると共に、JST の幹部、中華人民共和国教育部留学服務中心の要人、日中の他大学の参加者と交流を行いました。上海でのフェアでは、セミナー会場で、同行の国際交流センターの崎原 麗霞准教授と一緒に「鳥取大学乾燥地研究の紹介」と題した発表を行い、好評を博しました。また、鳥取大学ブースに訪れる現地の留学希望学生、および留学担当教員等に対して鳥取大学の情報提供を行うと共に、質問等に対応しました。

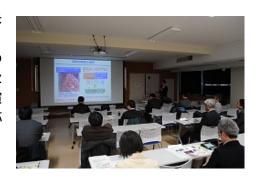


地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 平成 2 5 年度鳥取大学西部地区出前技術講演会 【1 月 16 日(木) 開催:鳥取大学】

鳥取キャンパスにある地域学部、工学部そして農学部の教員が米 子キャンパスに出張し、技術講演会を行いました。

田中研究担当理事、鳥取大学振興協力会の野津会長による挨拶の後、鳥取大学研究用設備の学外利用について、生命機能研究支援センターの本庄統括マネージャーが紹介を行いました。続く技術講演では、地域学部の李講師が「文化財の保存科学とその研究成果の応用」、工学研究科の伊福准教授が「キチンナノファイバーの製造とその利用開発」、工学研究科の大城教授が「水産資源からの機能性食材の開発を目指して」、農学部の石原教授が「植物と病原菌の関



係に関わる化学物質」と題しそれぞれ講演を行いました。約45名の参加者は熱心に聴講し、質疑応答でも活発な意見交換が行われました。

2. 鳥取県新エネルギー活用研究会 【1月21日(火) 開催:鳥取大学】

TNS登録研究会である「鳥取県新エネルギー活用研究会」の講演会が鳥取大学広報センターで行われました。本学大学院工学研究科の伊藤敏幸教授により、「バイオマス燃料のためのリグニンやセルロース溶解性イオン液体の開発について」と題した講演が行われ、木材等からイオン液体を用いた手法でリグニンやセルロースを取り出し活用する新たな技術に、聴講者は熱心に聞き入っていました。

3. 第4回とっとり防災・危機管理研究会 【1月28日(火) 開催:鳥取大学、及び鳥取県庁】

今年度4回目のとっとり防災・危機管理研究会を開催し、23名が出席しました。

今回の研究紹介・活動報告は、「近年の豪雨災害から」と題し、鳥取地方気象台の楠木台長からご講演いただきました。豪雨災害については会員の関心も高く、熱のこもった意見交換となりました。

その後、昨年11月に行った熊本県視察研修、大山町との共同研究、 COC事業、鳥取県原子力WEBサイト構築・保守運用業務企画提案書評 価委員会等の報告が行われました。

また、平成25年度防災フォーラムを、3月8日(土)に熊本大学から講師を招き開催することを決定しました。



4. 鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー 【2月4日(火) 開催:鳥取大学】

本学と鳥取銀行が平成 16 年に締結した「連携協力に関する協定」に基づき、県内企業のビジネスマッチングの促進及び県内産業の活性化を目的として、「鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー」を開催しました。5回目となった今回は、「産学連携による製造業のカイゼンと技術革新」をテーマに、本学からは、産学・地域連携推進機構 清水克彦准教授が「鳥取大学における産学連携推進の取組み」として、本学の産学連携に対する支援体制や研究技術の活用方法の説明を、また、同じく産学・地域連携推進機構 和田 肇産官学連携コーディ



ネーターが「製造業のための産学連携による新しい試み」として、地元製造業とのコーディネート事例について講演を行いました。当日は、地元企業・行政機関の関係者等 57 名の方にご参加いただき、セミナー終了後は、産学官金連携交流会が開催され活発な意見交換が行われました。

5. 平成25年度竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会第2回役員会

【2月7日(金) 開催:鳥取大学】

竹に関する情報提供やイベント開催など、鳥取県内の産学金官の各機関が連携して行う竹に関する連携協議会(略称)の平成25年度第2回目となる役員会を開催しました。佐野会長ほか17名が参加し、今後の活動方針等について協議を行いました。

6.平成 26 年度鳥取大学振興協力会第1回役員会及び総会

【2月20日(木) 開催:ホテルニューオータニ鳥取】

平成 26 年度第1回役員会、及び総会をホテルニューオータニ鳥取で開催しました。

総会には 66 名が参加し、会員企業の人事異動に伴う役員改選、 平成 25 年度事業報告・収支決算、平成 26 年度事業計画・収支予 算について審議され、いずれの議案も承認されました。新規事業と して、振興協力会に専任コーディネーターを配置し、会員企業との 連携を深めていくこととなりました。続いて講演会では、工学研究 科の木下准教授から「今、次世代不揮発性メモリが求められる理由 〜抵抗変化メモリ (ReRAM) の研究開発」、同じく工学研究科の赤



尾助教から「地域の知恵袋を目指して:機械材料分野の取組み」と題し講演を行っていただきました。

7.第 11 回食品開発と健康に関する研究会 【2 月 20 日(木) 開催:米子市文化ホール】

食品関連産業の振興を目的に「健康」をキーワードにした食品開発について産学官の関係者が意見交換する研究会として平成 17 年より毎年開催されています。本年は4 1 名が参加しました。まず、日本を健康にする!研究会顧問古西正史氏に「機能性素材の健康試行商品化「機能性おやつ」活動の視点」と題して講演いただき、続いて、本学産学・地域連携推進機構清水准教授が鳥取大学における地域資源を活かした美容・健康分野での取組み、鳥取県産業技術センター食品開発研究所 有福科長が鳥取県における6次産業化の取組みを紹介しました。また、平成26年度の研究課題や研究会活動について意見が交わされました。

3月24日(月)には当研究会水産食品加工分科会が鳥取県産業技術センター食品開発研究所で開催され、参加者35名の中、元近畿大学農学部川崎教授による特別講演「節類抽出残渣の有効利用と製品の機能性」、本学産学・地域連携推進機構清水准教授による話題提供「日本海水産資源研究会成果概要」、鳥取県産業技術センター食品開発研究所研究成果および平成26年度研究計画の紹介、参加企業との情報交換がなされました。

8. とっとりグランマ倶楽部第4回実行委員会 【2月22日(土) 開催:鳥取大学・明治大学】

鳥取県、明治大学、鳥取大学による連携講座「とっとりグランマ倶楽部」の第4回実行委員会を、鳥取大学鳥取キャンパスと明治大学駿河台キャンパスをTV会議で接続し開催しました。本会では、来年度のとっとりグランマ倶楽部第7期のテーマやスケジュール等について、検討が行われました。今後は、具体的なカリキュラムの決定と講師選定を行い、参加者募集を行うこととなります。

9. 平成26年度日野川の源流と流域を守る会総会・講演会 【2月24日(月) 開催:米子市文化ホール】

日野川に育まれた自然や文化を次世代へと受け継いでいくため平成 14 年 4 月に設立された日野川源流の会(会長:豐島学長)総会及び講演会が開催され、鳥取県西部地域の住民を中心に約 60 名の参加がありました。はじめに行われた総会では「日野川スマホ携帯写真コンテストグランプリ」受賞者発表が行われ、豐島会長より 7 名の受賞者に表彰と副賞の授与が行われました。

また、講演会では鳥取県衛生環境研究所水環境対策チーム 九鬼チーム長から、鳥取大学(檜谷教授)と共同で行った地下水と湧水の研究成果の発表と、日野川水系の水の美味しさについて講演が行われました。

10. 平成 25 年度南部町・鳥取大学連携事業報告会 【2 月 26 日 (水)

鳥取大学と南部町が連携して取り組んだ主要な事業を町民に分かりやすくお伝えする「平成 25 年度南部町連携事業成果報告会」を同町で開催しました。工学研究科・福山敬教授が「暮らしの安心感の要因構造に関する研究」について、農学部・日置佳之教授が「サクラの名所の課題」について報告しました。身近な課題に、会場からは熱心な質問がありました。



開催:南部町富有まんてんホール】

11.第8回鳥取大学と鳥取県商工会連合会との連絡会

【3月3日(月) 開催:鳥取県商工会連合会】

鳥取県商工会連合会との連絡会を同連合会館で開催し、計17名が 参加しました。商工分野における一層の連携と理解を深めることを 目的に、毎年行っているものです。

本学からは、産学・地域連携推進機構の加藤コーディネーターが 「植物工場を例とした産学連携の可能性」と題した事例発表を行い、 また鳥取県商工会連合会からは、本学と商工会員企業との最近の連 携支援状況と今後の取組について報告がありました。その後の意見 交換では、双方の参加者から活発な質疑応答が行われました。



12.平成 25 年度明治大学・鳥取大学連携推進協議会 【3 月 5 日(水) 開催:鳥取大学・明治大学】

本協議会は、平成19年に締結された「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」に基づき毎年度実施しているものです。これまでは、鳥取大学と明治大学の二者により開催してきましたが、本会より鳥取県も協議会の構成員として加入していただくこととなりました。

会議では、平成25年度の事業実績及び平成26年度の事業計画について意見交換を行い、来年度も引き続き相互の連携を深め、各種事業を展開していくことについて申し合わせました。



13.鳥取大学天文ドーム一般公開 [3月7日(金)、8日(土) 開催:鳥取大学]

鳥取大学開放推進事業の支援を受けて鳥取大学天文観測室(天 文ドーム)の一般公開を実施しました。

7日にはさじアストロパークから職員の方を招き星空のレクチャーを行いました。当日は雪交じりの悪天候であったため天体観測は諦めていましたが、レクチャー終了と同時に雲が切れ、月や木星を観測することができました。残念ながら天体ドームは着雪のため開口することができず内部見学のみとなりました。

翌8日には本学工学研究科の西田教授が人工衛星と星空についてレクチャーを行いました。その後天候の回復を待ちましたが、 晴間を見ることが出来ず、残念ながら観測は行えませんでした。



その他、両日ともに天文ドームの設備見学や天文研究会の観測記録展示、宇宙開発研究会の缶 SAT 展示などを行いました。両日合わせて 55 名の参加がありました。

14.平成 2 5 年度防災フォーラム 【3 月 8 日 (土) 開催: とりぎん文化会館】

とっとり防災・危機管理研究会主催により、平成 25 年度防災 フォーラムを開催しました。

今回は「突発性災害と災害情報」をテーマに開催し、熊本大学減災型社会システム実践研究教育センターから山田 文彦センター長と星出 和裕客員准教授をお招きし、平成24年に発生した北九州豪雨災害の経験についてご講演いただきました。

続いて、2名の講師に加え鳥取県危機管理局の城平局長、鳥取県県土整備部の山口次長、鳥取市役所の山本防災調整監をパネリストに「災害対応と避難情報」に関するパネル討論を行いました。 鳥取市自主防災会や自治体職員を中心に約120名が参加し、



会場からは多くの質問があるなど、防災・減災に対する住民の方々の関心の高さ、熱心さがうかがえました。 今後も、とっとり防災・危機管理研究会では地域と連携し安全で安心な地域社会を目指し、地域の防災・危機管理レベルの向上を図るための研究を継続していきます。

15.平成25年度竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会総会、及び竹利用フェスティバル

【3月8日(土) 開催:とりぎん文化会館】



一般市民に竹の利用や竹林整備について理解を深めてもらうため、 産学金官が連携して行う「竹利用フェスティバル 2014」(主催:竹林 整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会)が開催されました。総会 では、事務局を NPO 法人賀露おやじの会に設置すること等を協議・ 承認されました。竹に関する講演会では、特別講演として、京都大学 地球環境学堂の柴田昌三教授による「世界の竹の分布と利用法」と題 した講演が行われました。また、竹利用事例講演として、本学農学部 4年生の中島友海さんが「竹林の衰弱と樹木の更新」と題し講演を行

いました。会場では、国府傘踊り保存会による傘踊りの実演のほか、竹製品の展示・即売会ならびに竹に関する研究パネル展示を行い、全体で約300名の方々が参加しました。

16. 平成25年度鳥取大学・日南町連携事業報告会

【3月9日(日) 開催:日南町総合文化センター】

平成25年度に鳥取大学と日南町が連携して取り組んだ事業について成果報告会を開催し、町民や関係者約70名の参加がありました。報告会では、農学部片野助教から「豊かな環境を守るための不在村地主問題」について、医学部祝部講師から「日南町のおいしい水と名水調査」について、地域学部福田准教授から「「食」と「運動」を意識したワークショッププログラムの開発」について事業の成果や今後の目標などの発表が行われました。参加者からは質問や意見などが出され、実りある報告会となりました。



17. 第3回鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議 【3月9日(日) 開催:日南町総合文化センター】

連携事業報告会終了後に、今年度第3回目となるワーキンググループ会議(座長:農学部日置教授)を開催しました。第3回ワーキンググループ会議では、主に平成25年度に鳥取大学と日南町が連携して行った事業の実績についての確認と、平成26年度に向けて取り組む事業についての検討協議などが行われました。

今後も鳥取大学と日南町の双方が互いに発展し合えるような体制と役割を明確にし、事業を進めていくこと を確認しました。

18. 第7回琴浦町地域活性化フォーラム in 分庁舎 【3月15日(土) 開催:琴浦町役場赤碕分庁舎】

第7回琴浦町地域活性化フォーラムが開催され、約100名の町民が参加しました。

本学の法橋理事による開会挨拶に始まり、第1部では、農学部生物資源環境学科 松村准教授による「農地 一筆調査による農地権利情報の整備に関する共同研究」の成果報告が行われ、参加者は熱心に聞き入っていま した。第2部では、町内14団体が、輝け地域支援事業及び協同事業の成果発表を行いました。

19. 大山・日野川・中海学協会幹事会 【3 月 24 日(月) 開催:ホテルサンルート米子】

今年度2回目の大山・日野川・中海学協会幹事会をホテルサンルート米子で開催しました。検定受検者の減少、セミナー参加者の固定化などの現状が報告されました。昨年度に開催されたエコツーリズム国際大会の後継事業が本協会の活動目的を包括しており、鳥取県西部市町村・観光団体等の参画が見込まれ、本協会よりも幅広い事業展開が期待されることから、本協会の活動を新しい組織に継承することとし、本協会については解散することが確認されました。今後は6月に解散総会を予定しています。

20. 大山町との連携協定調印式および記念講演会 【3月26日(水)開催:大山町保健福祉センター】

大山町と本学は医学部を中心に連携を行っていましたが、平成24年度から町職員を研修派遣として大学で受け入れるなど、全学で様々な分野において連携を進めているところです。これらの背景をもとに、今後より一層の連携を図るため、豐島学長と森田大山町長が出席し連携協定調印式を行いました。

調印式後は、工学部附属地域安全工学センターの松原センター 長(工学研究科教授)が「防災・減災対策を中心とした大山町と 鳥取大学の連携」と題し、記念講演を行いました。この度の連携 協定締結により、本学と大山町との連携事業がより一層推進する ことに期待しています。



21.冬の手づくりまつり

【1月26日(日) 開催:鳥取市文化センター、2月9日(日)開催:上井公民館、

2月16日(日)開催:米子市児童文化センター】

県内3つのものづくり道場では子どもたちを対象に「冬の手づくりまつり・教室」を開催しました。3会場全体で、ものづくり道場の指導者養成を修了した各地区の「ものづくりカフェ」のメンバーが中心となり、懐中電灯をつくろう、クッキーづくり、身近なもので草木染め等合計22ブースを出展し、約625名(鳥取:100名、中部:75名、米子:450名)の子どもたちがものづくりを楽しみました。







知的財産管理・運用に関する事業報告

1.バイオ技術シーズ公開会

【1月16日(木) 開催:大阪科学技術センター】

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議が主催するバイオ技術シーズ公開会に、本学特許技術をベースとした「新規素材キチン・キトサンナノファイバーによる作物病害防除資材の開発」について、大学院工学研究科の江草真由美プロジェクト研究員(農学部 上中弘典准教授) がプレゼンテーションおよびポスター会場において企業との面談を実施致しました。

企業からの関心も高く、今後益々キチンナノファイバーの農業分野での利用が期待されます。



2.D S A N J 疾患別商談会 【1月31日(金) 開催:大阪産業創造館】

大阪商工会議所が主催する創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク DSANJ (Drug Seeds Alliance Network Japan) が開催する疾患別商談会に、生命機能研究支援センター 難波栄二教授と医学部 吉野三也准教授が参加致しました。商談会では複数の製薬会社と個別に疾患や創薬に関係する技術説明および意見交換等が行われました。引き続き、国内の製薬企業と創薬の実用化向けて連携を図っていく予定です。

3.JST 発新技術説明会

【3月7日(金) 開催:大阪科学技術センター】

(独) 科学技術振興機構 (JST) が主催する JST 発新技術説明会 (第 2 回グリーンイノベーション分野/ナノ・材料分野) において、キチン・キトサンナノファイバーにより抗菌性を付与した農業資材の開発と題した特許技術の発表を行いました。プレゼンテーションでは、江草研究員による技術説明と本件のコーディネーターである山岸助教が企業との連携の可能性について発表を行いました。3 社との個別相談とポスター展示会場では多くの来場者が関心を持たれ、当該技術に関して質問がありました。



4.平成 25 年度中国地域産学官連携コンソーシアム外部評価委員会

中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)の平成25年度事業に係る外部評価委員会が岡山大学で行われました。24年度末で文部科学省からの支援が終了した後、25年度から独自の取り組みとして事業継続してからは、初めての外部評価委員会でした。経済産産業省、NEDO、産業技術総合研究所、野村證券、JST、立命館大学から6名の委員が参加され、正会員、特別会員等からは9名が参加されました。前半は事務局から25年度事業内容を報告し、委員からコメントを頂きました。後半は事務局から中国地域における産学官連携をめぐる動き、26年度事業計画が説明された後、意見交換が行われました。さんさんコンソ事業のみならず、大学の産学連携活動全体についても参考となる貴重な意見が得られました。











新規コーディネーター紹介

鳥取地区



氏名:水根 正人 前職:鳥取県 非常勤職員

専門分野:機械工学、情報工学

抱負:企業での経験(鳥取三洋電機)と鳥取県での経験を生かし、鳥取大

学の優れた研究成果を社会に還元できるように、頑張ります。

東京地区(オフィスが鳥取県東京本部内(都道府県会館)に変わりました)



氏名:**片山 秀(しゅう)** 前職:国立情報学研究所(NII)事務参事

専門分野:応用物理(放射線高分子物性)

抱負:民間企業(ブリヂストン)で研究開発を 30 年、準公務員 (NII) で

研究支援を3年やってきた経験を活かし、頑張りたいと思います。





氏名:**黒瀬 純男** 前職:電機メーカ半導体部門及びアドバイザ専門分野:ソフトウェア(組込み分野のソフト開発、開発プロセス管理) 抱負:企業、地域、国に真に貢献する産官学連携を実現し、鳥取を、大学を中心とした音楽の知の集積地と表がく活動した。

を中心とした産業の知の集積地とすべく活動したい。

TOPIC:新規の地域貢献事業



ファブラボとっとり(FabLab Tottori)のご紹介

ファプラボ(FabLab)とはデジタルからアナログまでの多様な工作機械を備えた市民開放

型の実験工房です。子どもから専門家までの個人が自由なものづくりの可能性をひろげるためのラボであり、話題の3Dプリンタやカッティングマシンなどのデジタル機器を備えています。

FabLab のネットワークは世界 20 カ国以上 50 カ所以上に設置され、日本では現在のところ鎌倉、筑波、渋谷、北加賀屋(大阪市)、仙台、関内(横浜市)、大分の 7 カ所に設置されています。この度、鳥取市文化センター 1 階に中・四国地方初の『ファブラボとっとり』を設置することになりました。ファブラボとっとりでは、平成 20 年度から鳥取大学、鳥取県、鳥取市などを中心として行ってきた『ものづくり道場』(運営機関:ものづくり協力会議)で培った①200 名以上の指導者ネットワーク、②多様なアナログ工作機械、および③鳥取県内で年間延べ参加者 6,000 人以上の子ども向けの手づくりまつり(教室)の開催・派遣実績をベースとして、子ども中心の屋根瓦方式(教えられた人が他の人に教える学び合い教育)で学ぶファブラボとなります。 2 名の常駐スタッフのもと、ものづくりをじっくり楽しむことができます。 是非お気軽にお立ち寄り下さい。

ファブラボとっとりのキックオフシンポジウムのご案内

日時: 5/17 (土) 13:30-17:00、18 (日) 9:30-16:30 (予定) 場所:鳥取市文化センター (鳥取市吉方温泉 3 丁目 701 番地)

内容:ファブラボとっとり見学ツアー、体験ワークショップ、FabLab Japan 発起人の田中浩也先生の講演、手づくりまつりなど盛りだくさんのプログラムを用意しています。詳細はファブラボとっとり HP (http://www.fablab-tottori.jp)でご確認下さい。

発行日: 平成 26 年 4 月 15 日 < 第 36 号 </th>連絡先: 鳥取大学産学・地域連携推進機構 所在地: 〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101ホームページ・http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/

TEL: 0857-31-5609 Fax: 0857-31-5571 E-mail: ken-somu@adm. tottori-u.ac.jp